

戦中戦後・母子の記録 第二卷

我が子に遺す

戦中戦後・母子の記録 第二巻

我が子に遺す

三十数年の歲月の彼方に、日本女性のこの「生きた証言」を決して埋もれさせてはならないと、手さぐりで出発をした私達でしたが全国の皆様方の共鳴の輪の広がりで、少しばかりの針路が見い出せたような気が致します。

女性が強くなった、といわれてから久しいようですが、すでには女として、母として本当の厳しさと、強さを秘めて苦難の時代を生きぬいた姿があると痛感させられました。

校正の作業で読み合わせを致しました折、しばしば目頭があつくなり涙声となり文章も途切れがちになりました。壮絶な「女の体験」が脈うつ如く肌に伝わってくるのでした。いくら書き綴っても書きつくすことのできない皆様の思いを決して風化させてはならないと更に決意を新たに邁進していく所存でございます。なお一層のご援助をお願い致します。

編集委員

松 美子

越山田鶴子

戦中戦後・母子の記録 第二巻

我が子に遺す

昭和五十三年八月十日 印刷
昭和五十三年八月十五日 発行

発行者 笠原政江

京都市山科区大宅岩屋殿二番地
電話（〇七五）五七一―五二六番

印刷者 株式会社 同朋舎
図書 印刷

京都市下京区中堂寺鍵田町二
電話（〇七五）三六一―九二二

（非売品）



忍ぶ者は強し

北法相宗清水寺貫主

大西良慶老師筆(百四歳)

女の祈りをこめて

瀬戸内 寂聴

終戦の年から早くも三十年余の歳月がすぎ、昭和五十二年は終戦の年の戦災者たちの三十三回忌が全国的に各地で催された。三十三回忌というのは、なくなった人々の魂が完全に佛になり、残された者たちも、一応これで安心して、法事の總仕上げのような意味を持つと聞かされたが、もし人が自然死すれば、その人の死後三十年頃には、故人の身内や友人もほとんど死んでおり、もう故人を追憶する人も少くなっていることになる。ところが戦争でなくなった人たちは、まだ自然の寿命には達していない若い人たちや、無邪気な子供たちも多かった。当然、あれから三十年余りの年月を生き残った私たちの思い出の中には、その人たちがまざまざと生きつつづけている。

三十三回忌を営んでも、決してこれですんだという気持などにはならない激しい憤りと悲しさに私たちの胸は痛みつつづけている。



そんな時、ここに私財を投じて、戦争で息子や夫や恋人を失った女たちの手記を集めて一本にまとめようと考えた女性があらわれた。

笠原政江さんは、なぜそういう思いきった計画をたてたかということを私に熱っぽい口調で話してくれた。

「あの戦争を忘れることが出来ますか。二度とあんな辛い目に人間は逢ってはならないのです。あの戦争でどんなに多くの女たちが、思いがけない不幸な

運命につき落されたでしょう。私は同性として、自分もまた戦争未亡人となり、子供たちを育て、必死になって戦後を生きぬいた一人の女として、自分と同じような思いで、この三十余年を耐えてきた女たちの想いを一つに結集してみようと思ったのです。弱いといわれている女たちが、どう強く生きたか、どんな戦争の傷あとが今もまだ彼女たちの胸に残されているか、それを書き残すことは、次の世代への私たちの残す遺産であり義務だと思うのです。」

私は、笠原さんの言葉にこもる真実と激しい情熱に打たれた。

大出版社が企画して当然のことを、笠原さんが全くの素手でやろうとしている。それは営利のためでなく純粹な菩薩行である。

私はこの世紀の女の記録が多くの人々にあの戦争をもう一度見つめさせ、決して二度とあの悲惨をくりかえすまいという決意をおこさせることと信じている。

手記の書き手はすべて素人である。それだけに何の飾りもフィクションもない真実の重みと厳肅さがどの手記にもこもっていて力強い。

一人でも多くの女性に、戦争を知ると知らざるにかかわらず、読んでほしい。また一

人でも多くの男性に、決して戦争におもむかないという決意を新らたにするためにも、読んでほしい。

私たちの祈りのこもったこの本の誕生に、私もまた同世代を生きぬいた女の一人として、感謝とお祝いの気持を捧げたい。

合掌。

才二巻 発刊にあたり

笠原政江

初刊号に引続いて茲に戦中・戦後母子の記録才二巻「我が子に遺す」を発刊する運びになりました事は皆様の一方ならぬ御尽力の賜とひとえに御礼申し上げます。

私より十代若い人は婚期を逸し、私と同年配の方は夫を戦争でうしない私より十代上の方は我が子をとられ男が戦地に出た後、子供を育て、日本の国を守るため耐え忍んできた女の力の強さは偉大なものであったと思います。

このような思いを何とか若い人達に伝えるために始めたこの本も全国の方々からいただいた力強い励ましのお言葉を心の支えに三巻、四巻と精魂こめ、続けていきたく存じます。

この度も、全国から貴重な体験談を寄せていただきましたお母様方に、心からお礼申しあげます。



笠原政江

明治四十五年五月一日、三重県上野市市部川原に生まれる。横浜市神奈川高女卒、伊賀上野より京都油小路四条上る染料商植村家に嫁す。
昭和十八年、主人応召北鮮に入隊、戦後シベリヤに抑留。その後子供、しゅうとめをかかえ、染料商をやめ旅館営業に移る。昭和二十七年楠荘設立、現在に至る。



昭和22年11月の寒い風の吹く日でした。大阪梅田新道と桜橋一带の『やみ市』へ長男長女を連れ商いに行く私のスナップ写真です。

当時の甘味料と言えば、サッカリンとズルチンでした。やみ市の露店の甘党屋と言っても、地面に大きな鍋を置き、探すのに苦労する位のあずきの入ったぜんざいを売る店を一軒一軒歩いて廻り、一家七人が食べるお金が入る迄、京都へは帰れませんでした。

丁度その日は、娘の七五三の御祝いで、貧しいながらも、着物を着せ、余りにも寒かったので、物々交換で求めた白の首巻きをさせ、私もおじいさんのマントの毛皮を仕立て直しベッチンの着物コートを、オーバーコートに再生した物を着ていったものです。この様な恰好でも、その頃としては、一張羅（一番上等のもの）で娘の祝いに着物を着せてやる事ができたうれしさから、胸をはってやみ市の雑踏を歩いて行ったその当時がなつかしく思い出されますと共に貧しさとの戦いの中で子供達をどんな事があろうと守っていかなければいけないと言う強い信念の様なものが私の顔にも現われている様な気がいたします。物質に恵まれている現在でも、若い人達に母親としての強いがんばりとねばりを望むものです。

笠原政江

戦争終結の大詔発せらる

**新爆弾の惨害に大御心
帝國四國宣言を受諾
畏し、萬世の爲太平を開く**

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

**必ず國威を恢弘
聖斷下る途は一つ
信譽を世界に失ふ勿れ**

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

大権問題を慎重検討

閣議 外交文の交換

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

國の焦土化忍びず

御前會議に畏し御言葉

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

再生の道は苛烈

決死大試煉に打克たん

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

一億相笑の秋

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

支拂制限せず

インフレ防止に努力倍す

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

秩序と結束

戦時体制の力

大日本帝國政府は、今日、大東亞の運命を決定する大詔を發表せられた。この大詔は、新爆弾の惨害に大御心を痛め、帝國四國宣言を受諾し、畏し、萬世の爲太平を開くことを目的として發表されたものである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。この大詔は、大日本帝國政府の歴史上、最も重要な文書の一つである。

金貨流通の制限
出資の募集、計画
十一月八日から五ヶ月間

目

次

(順不同)

雪と花の下の子供達	………	田下ふみ江	1
ターピンズの詩	………	金田 信子	15
晩秋	………	林 静子	33
戦災孤児とのめぐり会い	………	佐々木正子	40
青春のころ	………	吉田 貞江	45
銘仙のおしめ	………	山田婦みよ	62
霜の朝	………	阿部セツ子	70
原爆体験	………	広中トラ子	94
遠い日	………	飯田 絹	100
思い出は遠くにありて	………	白山ユキ子	111
生き絶えた吾子を背負う母もいた	………	宮武マツ子	121
私と戦後	………	若山 綾子	145
顔も知らない父ちゃん	………	中尾千枝子	153
吾子の墓標	………	南 静江	158

生き耐えた歲月	………	安藤 キヨ	188
仏桑花の花	………	久保喜久栄	197
愛別離苦	………	和田 洋子	211
二つの人生	………	橋本 茂代	224
文を通して	………	広中みつる	237
引き揚げて	………	岡 サトエ	246
聖なる方に守られて	………	渡辺 富子	257
雪の道	………	東山 ゆ起	271
私のあしあと	………	河路むね子	278
死の淵	………	岡本のぼる	285
帰らぬ妹	………	鮎田 サト	289
「ケンちゃんもおにぎりがほしい」	………	辻 千恵子	306
空しい戦争	………	杉本はる江	311

雪と花の下の子供達



雪と花の下の子供達

東京都板橋区赤塚 1-12-1

田 下 ふみ江 (66才)